

# 3月定例市議会が 開催されました

3月定例市議会が3月5日から25日まで開催されました。  
はじめに、中村市長が当面する課題や新年度に向けての施政方針を述べた後、平成22年度一般会計予算などが上程され、いずれも原案のとおり可決されました。

## 中村市長の施政方針

今期定例市議会において、平成22年度予算案をはじめとする諸議案をご審議願うにあたり、所信の一端を述べるとともに、主要課題等について基本的な考え方を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いするものであります。

さて、昨年は、国政において政権交代が現実のものとなり、政治・行政の仕組みが大きく変わるとともに、経済も低迷した激動の年でありました。

そのような時代の転換期にあつて、本市にとつても、長年の夢であった韓国、ロシアを結ぶ環日本海定期貨客船が就航し、また、米子空港の滑走路も2500メートル化が実現した、歴史的な年でありました。

これはまさに、本市が将来都市像としてイメージする「環日本海オアシス都市」の実現に向けて、強力な推進力が備わったことを実感させます。

経済発展著しい北東アジアを俯瞰するとき、今私たちは、環日本海交流への時勢を確実にとらえ、地理的な優位性を活かして、日本海側における「北東アジアに向けたゲートウェイ」をめざすことが、大変重要となつていると考えます。

依然として厳しい経済雇用情勢の中、当圏域のさらなる発展の「鍵」は、まさに私たちの、この「海と空の道」にあると確信しております。重要なのは、今後これを「どう活かすか」であります。

私は、市政運営の柱に「連携と共栄」を掲げておりますが、周辺の様々な主体とあらゆる分野で「連携」を強化することによって、より強い広域圏を創り上げ、圏域全体の発展を図る中で、私たちのまちも「共に繁栄」していきたいと考えるものであります。とりわけ港湾や空港は、広範な背後圏があつてこそ機能が活き、圏域の発展に資するものであります。

今はまた細い「海と空の道」でありますが、「環日本海時代」を切り拓くこの道を、何としても途絶えさせはなりません。圏域共通の財産として、行政のみならず、経済界、地域を挙げて支えていただき、連携・協調のもとに「大きく、太い動脈」にしていきたいと考えております。

また、本市の「環日本海オアシス都市」のめざすところは、対外的な市勢伸展ばかりではございません。市民の暮らしに根ざした基本

的な施策をしっかりと進めることで、市民の皆様が、元気で心豊かに、そして快適に、安心して暮らせる独自の魅力を持ち合わせることに、あなかも「オアシス」のごとく、まちな体が憩いの場のように人やものが寄り集まり、活気あふれるまちなちをめざしたものであります。

これからも、このような都市像に少しでも近づけるよう、「公明正大な市政・市民と共に築く風格あるまち」を自らの政治理念に、引き続き協働のまちづくりを進めるとともに、規律ある財政運営のもと、経済の活性化と都市基盤の整備、市民一人ひとりを大切にする教育と福祉の充実に邁進していく所存であります。

**規律ある行政運営  
と協働の推進**

### 平成22年度予算案

本市の財政状況につきまして、本市の財政状況につきまして、歳入におきまして、市税収入が、不況の影響による個人市民税や法人市民税などの落ち込みによって大幅な減額となる見込みですが、地方交付税の特例的な増額や、国の後年度補てんが約束されている臨時財政対策



債の増額によって、一般財源の総額としては前年度より増額が見込まれます。

一方、歳出におきましては、経費全般について、本格的な行財政改革に取り組んだ平成15年度以来、引き続き節減合理化に努めているものの、平成23年度まで高水準で推移する公債費や社会保障関係経費の自然増など、圧縮することのできない経費の増大が大きく影響し、依然として厳しい状態が続いております。